



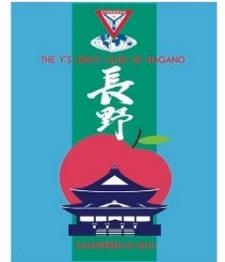
THE SERVICE CLUB FOR THE YMCAs CHARTERED IN 2010

長野ワイズメンズクラブ 会報

2025年1月 第167号

THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGANO

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS



2024~2025年度 主題

長野クラブ会長	(代行) 福島貴和	「出会いの種を育み咲かせる」 Let Our Seeds Bloom
あずさ部長	ピーター・マウントフォード (甲府)	「めあて 望み」
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」 Our Future Direction
アジア地域会長	ジョアン・ウォン (香港)	「大きなインパクトを起こそう」 Make a Great Impact
国際会長	A. シャナヴァスカン (インド)	「共により良い世界へ」 Together for a Better World

今月の聖句

『すべて重荷を負って苦勞している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。』

(新約聖書 マタイによる福音書 11章 28節 ※聖書協会共同訳)

2025年1月 新年例会案内

- 日時 2025年1月15日(日) 18:30~20:30
- 会場 レストランやま 380-0834 長野市問御所 1315

例会進行： 会長

- ・開会点鐘
- ・ワイズソング、ワイズの信条
- ・聖書朗読、祈祷
- ・会長あいさつ
- ・ゲスト、ビジター、キャンディデイト紹介 書記
- ・新年ワイズディナー 食前の祈り： 卓話者：
- ・卓話
- ・諸報告・諸連絡、ハッピーバースデー
- ・ニコニコ献金、会員一言 会計
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 会長

★★ 会長メッセージ ★★

『生かされている幸せ』

この度、長らく読売新聞の主筆を務めていた渡辺氏が亡くなった。新聞によると彼はプロ野球界のドンとして君臨していたらしい。その中で、プロ野球が揉めたときに「たかが選手の方で」云々との発言をしたらしい。これはかなり世間の反発をかったらしいが、なぜ世間が反発したのか考えるに、「人をそんな風に軽蔑してもいいのか」ということだったと思う。

前にも述べた通り釈迦の考えは、「我々は人間として考えないといけない」というもので、同じ人間同士互いに尊重しなければいけないと言う事になる。もしそうならば、いくら階級差があっても人を卑下してはならない。

われわれ日本人が幸せなのは、こうした仏教の元で生かされていることだろう。(会長代行 福島貴和)

1月ハッピーバースデー
10日 青山史恵さん
17日 勝田いつ子さん

สวัสดีปีใหม่ครับ!!

会長 (代行) 福島 貴和
書記 (代行) 倉石 美津子
会計 堀内 雅俊
連絡先 森本 俊子(庶務)
tokoton921@gmail.com

12月のデータ

会員数	7名
例会出席者数	5名
ゲスト	0名
ビジター	0名
例会出席率	71.4%
メーキャップ	1名
修正出席率	85.7%
ニコニコ献金	実施せず

12月8日クリスマス例会



楽し過ぎて
写真を撮り忘れちゃった!

🎄12月クリスマス例会報告🎄

森本俊子

12月例会はイレギュラーで、8日の午後2時半から玄証院で開かれました。

先月の石和土産のワインを飲む会の続きとして、クリスマス特別例会として行い、福島、倉石、堀内、勝田、森本が参加しました。

お料理は「やま」の特別オードブルセットを取りました。ノンアルコールの飲み物持参者が2人でしたから、結局3人で、3万円という高価ワインをペろりといただいてしまったこととなります。あんまり浮かれて、写真を撮るのを忘れしました。代わりに今年のクリスマス例会の写真を載せます。

(編注：お預かりした写真はp1に掲載したので、編者手元の今年のクリスマス例会の、別の写真です)



堀内さんのフルート演奏や、福島さんの玄証院建て直し計画後の使用法の夢を伺って、大いに期待が膨らみました。地下に響きの良いホールを作ること、善光寺に毎日上がるお米のおさがりを頂戴しての、大人や子供の抛り所作りなどと、具体的に伺いながら、長野クラブのみんなも協力させてもらおうと話し合いました。3年後になりそうですが、当面福島さんは隣の甚妙院に寄宿しながらの暮らしになるそうです。

アジア賞授賞式に参加しました

森本俊子

12月14日、松本クラブの第26回アジア賞授賞式に勝田、倉石、森本で参加。松本クラブの皆さんの総力を決しての運営と、作文コンテストに応募した留学生たちとワイズメンとの交流を楽しみました。

今年の応募は30人で、中国、台湾、ベトナム、韓国、インドネシア、タイ、ロシア、ベルギー、スリランカと様々な国から松本へ留学している若者でした。受賞者だけでなく応募者はすべてこの式に招待されるという企画は素晴らしいけれども、大変なことと感心します。



授賞式の様子

27人のワイズメンと運営関係者が6つのグループに分かれて交流できたほか、今までに応募したメンバー、Youth for NOTOのトマスさんによる「被災地支援レポート」のビデオ上映もあり、この会がつながりと拡がりを生み出していることを確認できました。Youth for NOTOはワイズメンズクラブ東日本区ユース・アクションから20万円の助成金を与えられたと知りました。長野クラブからもお祝い金1万円をお届けしました。

(編注：「Youth for NOTO」の文言は、内容の理解を助けるため編者にて追記しました)

小淵沢のフィリア美術館訪問レポート

森本俊子

11月30日(土)、埼玉クラブ浅羽俊一郎さんの企画、呼びかけに乗って小淵沢のフィリア美術館へ行ってきました。ドイツの女流銅版画画家ケーテ・コルヴィッツの「ピエタ」など、キリスト教系の絵画を展示する美術館で、アウシュヴィッツに収容されていた方の描いた作品も所蔵している美術館です。すでに季節休館に入っている所を特別に2時間だけ開けていただくという特別感に加え、過日石和温泉での部大会の折に「小海線の魅力」を話題にしたばかりだったので、ぜひにと誘いあって参加しました。

ケーテ・コルヴィッツの常設作品に加え、アウシュヴィッツ獄中でも作品を創り洗濯物などに潜り込ませて外部へ発表を続けたミエチスラフ・コシチエルニアクの貴重な作品が数点展示されていました。テーマは思っていた物と違って、樹下で憩う男女の姿などが小さい作品の中に描き出されていました。結局戦後も81歳まで生き、絶望の中でも希望を失わず創作活動を続けた精神に強い刺激を受けました。

この日長野から参加したのは、勝田、倉石、森本で、福島さんが所用で直前キャンセルになってしまい、新たに小海線の旅を企画する必要がありそうです。



南国の味覚『土佐文旦』
ご購入のお願い

お待たせしました！今年も南国の味覚『土佐文旦』のお知らせをいたします。土佐文旦は、南国高知ならではの特産品です。今年も昔ながらの気候に恵まれ、みずみずしい実質がもたらした例の味覚を運ぶます。薄皮で歯触りの良い果肉、ジュワーな果汁、上品な味覚は特別で南国に好評をいただいております。この南国から香りをいっぱい詰め込んだ『土佐文旦』を生産者直送によって特別価格でお届けいたします。

売上金の一部は、アジア賞の入賞者の学費補助のかたちで使わせていただきますので、是非とも多くの方のご協力をお願い申し上げます。松本ワイズメンズクラブ 赤羽美栄子

販売商品 【土佐文旦】(10kg箱) 16個〜23個入り 家庭用向
販売価格 2箱・8,800円 10箱・44,000円 (送料込み)
みなさまに低価格でご購入いただきたく一括発送することで送料の削減を図りました。お仲間取り纏めて必ず2箱以上の偶数箱で、またできれば10箱単位でのお申し込みをおねがいいたします。尚、家庭向けのため、多少の不揃いがあることをご了承ください

お申込方法 松本ワイズメンズクラブ 正木 昌樹 宛FAXでお申し込みください
FAX番号 0266-79-6227

お申込期限 2025年1月20日
出荷時期 2月20日以降(予定)

代金の支払い 下記の郵便用口座にお振り込みください。(郵便送金)
口座番号 11190-26293021
口座名義 松本ワイズメンズクラブ



松本クラブ恒例の『土佐分旦』の案内が来ました！

クラブ単位で取りまとめて、ぜひファンに協力しましょう。売上金の一部は、アジア賞の入賞者の学費補助のかたちで使われます。
(詳しくは申込書を兼ねているチラシをご覧ください)

バングラデシュでの医療協力ボランティアに行ってきました(1)

湯田勝彦

12月27日(金)〜1月3日(金)、バングラデシュへ医療協力ボランティアに行ってきました。今回は私の勤務先クリニックの院長の伊藤先生、同じクリニックの理学療法士森元さん、北海道の町立診療所院長の榊原先生(新生病院の元副院長)、そして私の4名のプライベートチームです。私は2016年に新生病院の医療協力活動で行って以来、実に8年ぶりのバングラデシュです。なお、私の役割はプログラムコーディネーターで、事前に現地の受け入れ先病院とのやり取り、渡航のための航空券やビザの手配、現地での生活面(宿泊先や食事、移動手段など)の手配、収支管理などなど、ボランティアの医師・医療者の方達が活動に専念できるようマネジメントする仕事です。もちろん、活動記録や写真撮影もするし、人手が足りなければ手術室に入って医師、看護師の手伝いもします。

行った場所はバングラデシュ北部、インド国境近くのジョイラムクラ村。少数民族のガロ族(キリスト教徒の民族)が暮らす貧しい村です。主な産業は農業ですが、国境を流れる川の氾濫により収穫は不安定。都市部との経済格差は激しく、経済的理由で乳幼児期に医療を十分に受けられず、外傷や先天的な障害を負ったまま大人になってしまう人が多いのも事実です。そのようなガロ族の人々の生活状況を改善しようと、ガロ・バプテスト・コンベンションというミッション団体が展開しているプロジェクトのひとつが、今回の私達医療ボランティアを受け入れていただいた「ジョイラムクラ・キリスト教病院」です。

活動内容は、本来であれば滞在期間を目一杯使って外来診察、手術、病棟回診を行い、ひとりでも多くの患者さんを診て、現地の医師・看護師の勉強も兼ねて、一緒に必要な手術や処置を行います。時には朝8時から夜中の0時過ぎまで休む間もないこともあります。しかし今回は、滞在期間3日間のうち、2日間を診療・手術に当てました。また、慢性的な疾病など、手術後に長期にわたる継続的な医学管理やリハビリが必要になる患者は、それが現地の医療環境では難しいため残念ながら断らざるを得ず、主に今回の医療的な対応である程度の効果が見込める患者さんに対して、手術を行うことになりました。写真を少しお見せします。

さて、では3日間のうちの残り1日、私達は何をしたのでしょか。それはまた次回に！



ジョイラムクラ・キリスト教病院の正面玄関前で。
左からシュキラ看護部長、ムクティ先生、榊原先生、森元さん、ルーシー院長、タボシュ前院長、湯田、伊藤先生



病棟。入院中は家族も付き添う。



外来待合。大勢の患者さん。



丁寧に診察します。



内視鏡検査。



手術は現地の看護師と。ベンガル語で会話！

山梨YMCAだより

祝福・平和・希望に満ちた新年へ

総主事 中田 純子

新年おめでとうございます。2025年を迎えるにあたり、まず私たちは日本と世界の平和を祈り、喜びを分かち合うために心を静めたいと思います。

昨年12月は、イエス・キリストの誕生を祝う喜びの時でしたが、同時に私たちにとって大変大きな出来事もありました。昨年10月、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞しました。このニュースは私たちに驚きと喜び、そして大きな希望をもたらしました。

日本被団協は広島YMCAから始まり、共に同じ思いで運動し、平和を訴えてきた団体です。長年の努力が世界に認められたことは、平和を求める私たちに力強いメッセージを送っています。12月10日の授賞式では、田中熙巳代表委員が「核兵器は一発たりとも持たない」という被爆者の強い願いを世界に向けて訴えました。また、「核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張ろう」と呼びかけ、未来への希望を示しました。

しかし、地続きにある円い地球を見ると、人々の争いは絶え間なく続いています。自ら兵器を持ち戦いに向かう姿は、ただ悲しいというよりも心が引き裂かれる思いです。

山梨YMCAは1946年、戦後間もない時期に設立されました。戦争を体験した青少年たちがこの地の平和を祈りこのYMCAを築き上げてきたのだと想像されます。このYMCAに寄り添うワイズメンズクラブも同じ方向を向いて歩む団体として、これからもすべての人々にとって平和な社会の実現に向けて努力を続けていきたいと思います。

2025年の祝福と世界の人々の平和とより良い未来への希望が生まれますように祈りを重ねます。この時、皆様と共に小さな一歩を踏み出すことができることに感謝いたします。

主な記念例会、行事などの予定

2/8(土)13:00~16:00 第2回あすさ部評議会

於：山梨YMCA3階 大澤英二記念ホール『ベテル』

登録費：2,000円

※出欠の取りまとめは1月新年例会にて。

2/16(日)20:00~21:30 ワイズ・ナイトフォーラムⅡ

※Zoomで開催されます。参加申し込みは不要。

※「Youth for NOTO」の活動が紹介されます！

Zoom URL

<https://us06web.zoom.us/j/82834160715?pwd=smRebpBO3tlCfcfdN>

[oaA9bhWYAHgKh.1](https://us06web.zoom.us/j/82834160715?pwd=smRebpBO3tlCfcfdN)

ミーティング ID: 828 3416 0715 パスコード: 416706

2/19(水)18:30~20:30 2月「TOF」例会

於：レストランやま

★リレーエッセイ☆

『梅花に想う』

堀内雅俊

庭に小ぶりな梅の木がある。

父が植えたこの木が好きです。なぜ、梅の木を植えたのか聞かずに時間が過ぎてしまいました。

遙か昔？私は中学の国語の教科書に梅の詩が載っていました。それ以来冬になると梅の開花が待ち遠しくてなりませんでした。

高校のころから梅の名所に通い始めました。特に、大学時代は湘南電車に乗って茅ヶ崎、鎌倉が目標地になりました。

夜行の最終に乗って鎌倉駅下車。舎屋で震えながら日の出を待ちます。ヤシカカメラを温めながら胸に抱き待つこと2時間。待ちきれずに長谷寺に向かって暗闇を進みます。息が白く纏わり付きます。真っ暗にそびえる寺院の陰に迫ってふと立ち止まる。深い呼吸に、梅の香が胸の奥にほんのりと入り込む。ただ夢中になってシャッターを押す。暗闇に薄ピンクが漂うだけ。写るわけもない。でも、満足です。

厳寒の中に果敢に花を咲かせ私に生きる力を与える梅花。そして、花に先んじて香りを放って、この凍り付く大地に生きることを知らせるこの花に感謝して止まない。



自宅の梅の花（昨年撮影）

次のリレーエッセイは勝田さん、よろしくお祈りします。

編集後記

1月プリテンは4ページになりました！とはいえ、今回は森本さんががんばって3つものレポートを書いてくださったおかげです。これからも、皆さんからレポートやリレーエッセイ、寄稿をたくさんいただいて、全員参加のプリテンを目指します！（湯田）